

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32511

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04472

研究課題名(和文)在宅生活ニーズ把握を目的とした多職種連携のための見取り図活用方法の開発

研究課題名(英文) New ways of utilizing house floor plan sketches to facilitate multidisciplinary teamwork aimed at identifying the lifestyle needs of elderly individuals living at home

研究代表者

工藤 恵子 (Kudo, Keiko)

帝京平成大学・ヒューマンケア学部・教授

研究者番号：60453958

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、アセスメントツールとしての住まいの見取り図の活用効果を検証することであった。まずは見取り図の活用を促すために、教材DVDを開発した。その内容は保健師が家庭訪問で情報収集しながら見取り図を作成し、本人や家族とともに生活状況を確認し、さらに多職種による事例検討会を開催するというものである。このDVDを視聴してもらい、見取り図の活用や活用効果に関するアンケートを実施した。DVD視聴で見取り図に関する興味は深まるものの、日常的な活用に至るまでにはさらなる工夫が必要であることが示唆された。また見取り図を、在宅生活支援に関わる実務者以外に、学生の基礎教育で活用することなどが提案された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回、見取り図の具体的な活用を紹介するために、教材DVD「生活を俯瞰する見取り図の活用 在宅ニーズの理解のために」を制作した。教材DVDは、これまで見取り図の活用は消極的だった人に対し、活用してみたいという興味をもってもらおうという一定の効果はあった。しかし実際に見取り図を活用し、どのような変化があるのかを検証することは、今後の課題となった。

一方、教材DVDは、今後、基礎教育の中での活用することも期待される。これまでの研究は現場で実務を担当する者に焦点を当ててきたが、基礎教育に取り込むことで、今後の見取り図活用の広がりが期待される。

研究成果の概要(英文)： We sought to verify the effectiveness of utilizing house floor plan sketches (FPSs) as a tool for assessing in-home living assistance of elderly individuals. First, we developed a training video to encourage care providers to utilize FPSs. In the video, a public health nurse creates an FPS while gathering information during a home visit, then checks the care recipient's living conditions together with the care recipient and family members, and also convenes a multidisciplinary case conference. Next, the care providers watched the video and then filled out a questionnaire about utilizing FPSs and their effectiveness. Their responses suggested that watching the video increased their interest in FPSs, but some planning and minor adjustments were needed before they could utilize them routinely. The care providers also made recommendations such as utilizing FPSs in the basic curriculum for nursing and welfare students, as well as by care practitioners providing in-home living assistance.

研究分野：地域看護学

キーワード：見取り図 アセスメントツール ニーズ把握 在宅生活 多職種連

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

今、わが国は世界に類をみないスピードで超高齢化社会を迎えつつある。2000年には高齢者を社会全体で支える仕組みとして介護保険制度が創設され、大きな転換期となった。その後、何度か制度の見直しが行われ、2014年には医療介護総合確保推進法が成立したところである。地域包括ケアシステムの構築を条件に、療養の場は医療機関から在宅へと移行し、病気や障害があっても住み慣れた地域で生活することが強調されている。さまざまな制度の創設や見直し、再構築がなされているところではあるが、これから迎える超高齢化社会に向けての明確な見通しが立ち、十分な準備が整ったとはいえない状況にある。

地域包括ケアシステムは、居住者自身の選択による住まい方が、その多様な住まいで達成されることがシステム成立の前提条件である。まずは住まいや住まい方に関する個々の評価が在宅支援者によってなされる必要がある。医療機関などの施設とは異なり、住宅では本人が感じ取っているニーズが重視されることになるが、本人が諦めている、あるいは気づいていないニーズも潜在している。本人が気づいていないニーズについては、多分野の専門職が連携し、検討することで対応策が選択されることになる。住宅における「すまい方」を含むニーズアセスメントが、多職種の支援者によっても的確に行われることが求められている。

これまで、住まいや住まい方におけるニーズアセスメントのツールとして、見取り図(住宅の間取りに動線や家具、置かれているモノ等を記載したスケッチ)の活用を提案してきた。最近では、事例検討会における図示による可視化として、家の配置図が掲載された文献(大木幸子:保健師ジャーナル Vol.71, No.5, p436-441.)もみられる。また平成28年3月の保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書では、視覚媒体として住宅見取り図を活用することが提案された。しかし、見取り図に必要な要件や具体的な活用方法は明確にされていない。在宅支援を担う専門職においても、見取り図の活用は限定的で、広く共有されているとはいえないのが現状である。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、見取り図の活用効果を検証することであった。

そのために、まずは見取り図の活用を促進する必要がある。見取り図の活用を普及させるためには、どんな見取り図をどのように活用することが有効であるのかを検討した。

次に、見取り図の活用を促進するためには、活用場面の設定と活用方法を具体的に提示する必要がある。これまでに仮想事例を用いた事例検討会で、見取り図活用の一定の効果を確認していたことも勘案し(工藤ほか、2017)、見取り図活用のための映像媒体(教材DVD)を制作した。

最終的に、作成した教材DVDを用いてワークショップや研修会等を実施し、DVD視聴後に見取り図の活用や、今後の活用可能性に関するアンケートを実施した。

### 3. 研究の方法

以下の手順で、研究を進めた。

#### (1) アセスメント・ツールとして有効な見取り図の要件整理

これまでの調査や事例検討会での見取り図の活用を試行することで、在宅生活ニーズをアセスメントする上で効果的であった見取り図について再検討した。

#### (2) 教材DVDの制作

保健師が家庭訪問を行い、そこで得た情報をもとに見取り図を作成。見取り図を用いて、継続訪問の実施や、多職種による事例検討会を開催するという映像媒体で、見取り図の具体的な活用を提示した。

#### (3) 教材DVDを用いたアンケートの実施

研修会やワークショップ等で、DVDの視聴を行う。視聴者を対象に、見取り図の活用場面、活用方法、活用の効果などに関するアンケートを行った。アンケートから得た情報に加え、積極的に見取り図を活用している対象者や組織のヒアリング調査も合わせて実施した。

### 4. 研究成果

#### (1) 教材DVD「生活を俯瞰する見取り図の活用 在宅ニーズの理解のために」

教材DVDの中で用いた最終的な見取り図は、方眼紙を用いフリーハンドで、部屋の広さや出入り口等がある程度正確な広さや位置で描かれたものとなった。見取り図の描き方については、すでにパンフレットを作成済みであり、DVDの活用ガイドとして添付し、教材DVDの中にも映像として描き方の紹介を一部盛り込んだ。

DVDは3部構成になっており、内容の概略は以下のとおりである。

##### <第1話> 初回訪問

長女から地域包括支援センターへの相談電話をきっかけに、保健師が本人の家を訪問する。担当の保健師は経験の浅い新人保健師という設定である。訪問後、センターに戻り、職場の先輩に訪問時の状況を伝えてアドバイスをもらった後、2回目の訪問を計画する。

##### <第2話> 継続訪問

訪問場面で初回訪問をもとに作成した見取り図を用いて、本人や長女と生活状況を確認する。その過程で、本人のこれまでの生活や家まつわる思いを確認する。このことがきっかけとなり、本人や長女の将来に向けての考えや希望を聞くことになる。

### <第3話> 事例検討会

事例提供者である保健師と地域包括支援センターのスタッフに加え、高齢福祉課の社会福祉士、理学療法士をメンバーに加え、本人や家族への支援に関する事例検討会を開催する。事例検討会は、見取り図を活用しながら進めるという設定になっている。なお、第3巻の事例検討会は、実際に地域で実務を担っている多職種の方々に協力いただき、シナリオは用いず、第1話、第2話に登場した仮想事例を用いてディスカッションした場面を編集したものである。

#### (2) 見取り図活用効果に関する調査

完成したDVDは、以下の様々な機会に配布し、調査への協力を依頼した。配布の機会としては、研究者らが主催した研究会（平成29年、30年、31年、計3回）、学会でのワークショップ（平成30年、日本公衆衛生看護学会）の他、自治体等で開催した研修会等への協力（2回）、その他、学会会場や研修会等で在宅療養支援に関わる保健医療福祉の専門職が集まる機会にDVDを紹介して配布し、アンケートへの協力を依頼した。

アンケート配布数は288件、回収数は57件（回収率19.8%）であった。回答者の属性は保健師と看護師が約9割を占め、この中には介護支援員として業務についているものも約15%いた。所属としては約4割が行政機関、約3割が教育機関だった。見取り図を事例検討会で活用してみたという前向きな意見もある一方で、見取り図を描くことに困難さを感じるという意見は、これまでの調査と共通するものであった。またDVDの活用方法について、現場の新任者の研修の機会に視聴するというもののほか、基礎教育の場で、グループワークなどを取り入れながらDVDを分割して使う、部分的に使う（家庭訪問の場面のみ、あるいは事例検討会のみ）という提案もあった。また、DVDに登場するのは一事例のみであり、様々な場面や他の事例での活用などの教材が欲しいという意見が多数あった。

アンケートや研修会等で、積極的に見取り図を活用しているという地域包括支援センター関係者（2か所）、教育関係者（1か所）、訪問看護ステーション（1か所）のヒアリング調査を行った。日常的に見取り図を活用している現場では、見取り図を描くのが当然という意識があった。見取り図は時間をかけて細部を詳細に書き込んだものではなく、訪問の場面で気が付いたことをメモしてきて、事務所に戻ってからケース記録を書く際に、他のスタッフに伝えたいこと、記録に残したいことなどを、比較的短時間でラフなスケッチとして描いたものが大多数だった。記録用紙が、そのような手書きで書き込んだものを残せるような様式になっていた。電子化された記録しかない場合は、メモしてきた見取り図を残すことが困難であるという状況が推測された。隣地実習の場面で、隣地指導者が、学生に訪問事例の見取り図を描かせることで、事例のニーズや課題を確認するという取り入れられているものもあった。

#### (3) 課題

今回、見取り図の活用効果の検証ということで進めてきた研究であった。見取り図を用いることで、ニーズ把握や課題の検討、それらの情報共有が促進されるという結果は、これまでと同様のものであった。制作した教材DVDは、これまで見取り図の活用に消極的だった人に対し、活用してみたいという興味をもってもらうという一定の効果はあった。しかし、実際に活用したのか、その効果はどのようなものだったのかまでの調査は、今回はできていない。また教材DVDを配布した対象も、偏りがあったことは否定できない。しかし、一方でDVDは基礎教育の中で用いる教材として有効ではないかという提案があった。見取り図の活用を広める一つの方策として、基礎教育の中に取り込んでいくということは考えられる。具体的な活用については、今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 工藤恵子 鈴木晃 浦橋久美子 大越扶貴 阪東美智子 高橋郁子 猪股久美	4. 巻 9
2. 論文標題 地域ケア会議を想定した多職種による仮想事例検討会での住まいの見取り図活用効果	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 556-566
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大越扶貴, 工藤恵子, 鈴木晃, 浦橋久美子, 阪東美智子, 高橋郁子, 猪股久美, 網野寛子
2. 発表標題 仮想事例を用いた事例検討会における見取り図活用効果
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 工藤恵子, 鈴木晃, 浦橋久美子, 大越扶貴, 阪東美智子, 高橋郁子, 猪股久美, 網野 寛子
2. 発表標題 教材DVD「生活を俯瞰する見取り図の活用:在宅ニーズの理解のために」の作成と活用
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩本里織, 松下恭子, 岡久玲子, 多田美由貴, 鈴木晃
2. 発表標題 多職種連携を推進する事例検討会での見取り図等の活用の効果 質問紙調査結果から
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 工藤恵子、高橋郁子、岩本里織、橋本雅美、浦橋久美子
2. 発表標題 家庭訪問と生活ニーズアセスメント:教材DVD「生活を俯瞰する見取り図の活用」の視聴と活用に関する提案
3. 学会等名 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 工藤恵子, 鈴木晃, 阪東美智子, 浦橋久美子, 大越扶貴, 高橋郁子, 猪股久美 網野寛子
2. 発表標題 在宅生活ニーズ把握のための見取り図:見取り図の描き方に関する検討
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阪東美智子, 工藤恵子, 鈴木晃, 浦橋久美子, 大越扶貴, 高橋郁子, 猪股久美 網野寛子
2. 発表標題 在宅生活ニーズ把握のための見取り図:介護支援専門員研修の見取り図活用の実態
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 工藤恵子, 鈴木晃, 浦橋久美子, 大越扶貴, 阪東美智子, 高橋郁子, 猪股久美, 網野 寛子
2. 発表標題 見取り図を用いた在宅生活アセスメント:看護基礎教育における教材DVD活用アンケート
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浦橋久美子, 鈴木 晃, 工藤恵子, 大越扶貴, 阪東美智子, 鎌田明美, 緑川喜久代, 高橋郁子, 猪股久美
2. 発表標題 見取り図を用いた在宅生活アセスメント：市町村保健師の見取り図活用の実態
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋郁子, 工藤恵子, 猪股久美, 網野寛子
2. 発表標題 看護基礎教育における家庭訪問に関する一考察
3. 学会等名 日本リハビリテーション連携科学学会 第20回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 岩本里織, 工藤恵子, 草野恵美子編集	4. 発行年 2018年
2. 出版社 クオリティケア	5. 総ページ数 296
3. 書名 公衆衛生看護活動論 技術演習第3版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

教材DVD「生活を俯瞰する見取り図の活用 在宅ニーズの理解のために」を制作
---------------------------------------

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 晃 (Suzuki Akira) (20187701)	福島大学・人間発達文化学類・特任教授  (11601)	
研究分担者	大越 扶貴 (Okoshi Fuki) (90352632)	岩手保健医療大学・看護学部・教授  (31204)	
研究分担者	浦橋 久美子 (Urahashi Kumiko) (70406015)	三育学院大学・看護学部・教授  (32528)	
研究分担者	阪東 美智子 (Bnndo Michiko) (40344064)	国立保健医療科学院・生活環境研究部・上席主任研究官  (82602)	
研究分担者	高橋 郁子 (Takahashi Ikuko) (40379946)	帝京平成大学・ヒューマンケア学部・准教授  (32511)	
研究分担者	猪股 久美 (Inomata Kumi) (90464784)	帝京平成大学・ヒューマンケア学部・准教授  (32511)	
研究協力者	網野 寛子 (Amino Hiroko)		